

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

「米大統領選2020」 (P2)

りそな銀行 市場トレーディング室
カスタマーディーラー 伊藤 一輝

今週のドル円予想レンジ **102.75 ~ 107.75**

りそなWEEKLY COLUMN

難航続きの英国とEUの通商協議 (P3)

関西みらいフィナンシャルグループ
ストラテジスト 荻谷 将吾

- 英国とEUの通商協議は年末の移行期間終了を控え、相も変わらず難航中
- 市場参加者「また今回も難航しながらもいずれは合意するだろう」
- とはいえ、「合意なし離脱」は影響が大きい為、注視が必要

2020/11/2

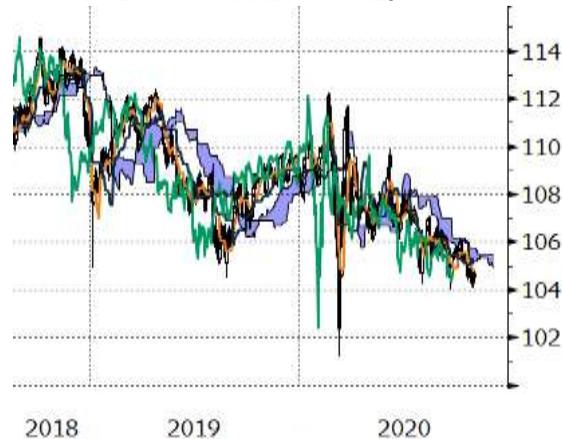
りそな外為レポート

「米大統領選2020」

今週のドル円予想レンジ **102.75 ~ 107.75**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表（日足）



◆為替相場のすすめ

先週のドル円は一時、約1か月ぶりの円高水準に接近するも、「リスク回避のドル買い」が104円割れを阻む格好となった。一方でユーロは対円、対米ドルで売りが目立った。フランスやベルギー等でロックダウンが開始されたことは、欧州経済の先行きに悪影響となろう。欧州中央銀行(ECB)のラガルド総裁は29日(木)、次回の理事会(12月)で緩和方向の政策をとると予告した。

さて、今週最も注目されるイベントは、米大統領選と上院選・下院選だろう。大統領選の開票は東京時間4日(水)を予定しているが、郵便投票の集計には時間を要する見通しだ。個人的には、すでに市場は「米国の大統領がスムーズに決まらない懸念=円高リスク」を相応に織り込んでいると考え、大統領選の大勢が判明したときのファーストリアクションは「どちらの候補の名前が挙がっても円安になるのでは」と予想する。

(カスタマーディーラー 伊藤 一輝)

◆今週の日程

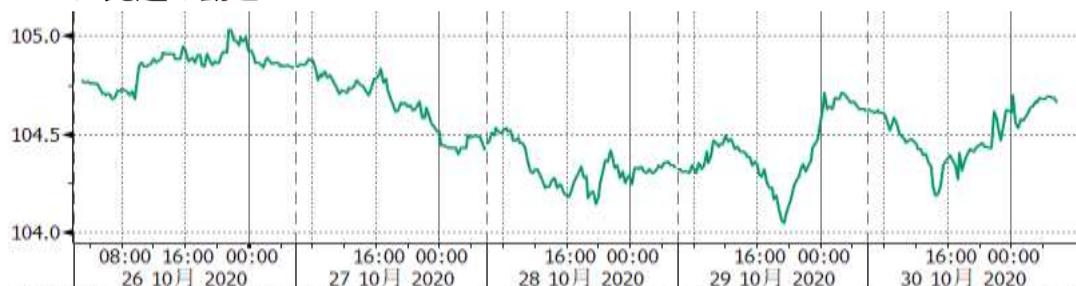
2日(月) 中 10月製造業PMI
2日(月) 米 10月ISM製造業
3日(火) 米 大統領選挙
4日(水) 日 日銀金融政策決定会合議事要旨(9/16,17)
4日(水) 米 9月貿易収支

4日(水) 米 10月ISM非製造業
5日(木) 英 BOE金融政策委員会
5日(木) 米 FOMC(結果発表)
6日(金) 米 10月雇用統計
7日(土) 中 10月貿易統計

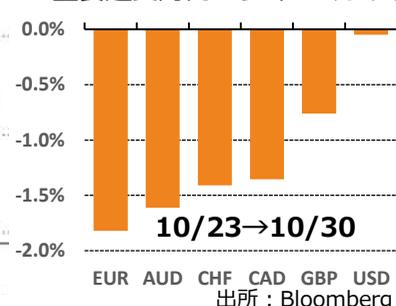
◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 10月30日(金) 104.66円 VS 11月6日(金)

東京										大阪			埼玉				
井口	中根	石川	湊	小新	鳥井	田中	中里	伊藤	村永	小林	鈴木	武富	上野	小林	津田	石井	佐藤
↓	↓	↓	↓	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↓	↓	↑	↓	↑	↓	↑

◆先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2020/11/2

りそな WEEKLY COLUMN

難航続きの英国とEUの通商協議

- 英国とEUの通商協議は年末の移行期間終了を控え、相も変わらず難航中
- 市場参加者「また今回も難航しながらもいずれは合意するだろう」
- とはいえ、「合意なし離脱」は影響が大きい為、注視が必要

関西みらいフィナンシャルグループ
ストラテジスト 苅谷 将吾

英国とEUは移行期間の終了を間近に控える中、通商協議が難航しています。EUと取り決めた離脱の期限も3回にわたって延長する等、たびたび協議が難航しています。

EU加盟国の間では人が自由に移動できる為、流入が続いていた移民に対する不満や、貿易などの重要な政策の決定を自国で行いたいとの意向から、2016年5月に国民投票によってEUを離脱する方針を決めました。そして3回の離脱期限の延長を経て、2020年1月にEUを離脱、47年間続いたEUとの関係が終了しました。離脱後は移行期間に入りましたが、FTA（自由貿易協定）の妥結に向けた交渉が難航しています。

これまでの経緯と今後の予定

2016年6月	国民投票でEU離脱方針が決定
2019年10月	英国とEUが離脱協定で合意
2020年1月	英国がEUを離脱し、移行期間へ
7月	移行期間延長の申出期限も、英国は申し出ず
10月15・16日	EU首脳会談（英側が合意期限と設定）
10月末	EUに対し国内市場法の見解の返答期限
11月中旬	通商協議の合意目標の時期
12月10・11日	EU首脳会談（年内最終）
12月31日	移行期間終了

出所：各種報道

大きくは以下の3点に関して双方が譲らず交渉が難航しています。

英国	主な争点	EU
英国の法に則り経済的に影響の大きい企業に対し政府の救済が可能	公平な競争条件	英国が企業に補助金を出すと公正な競争が確保できない為、離脱後もEUルールに合わせるよう要求
英国領海でのEU諸国の漁獲量は毎年の交渉によって決定する	漁業権	英国領海での現状と同様の漁獲量確保を要求
離脱後は欧州司法裁判所の管轄外となり、係争時も関与を拒否	紛争解決	係争案件発生時には欧州司法裁判所の関与をある程度認める

出所：各種報道

◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

りそな WEEKLY COLUMN

➤ 今後の展開は？



英国とEUの間でFTA(自由貿易協定)が締結できればいいのですが、移行期間が終了する2020年12月末まで時間が少なくなってきています。ただし、金融市場で現状を悲観的に捉えている向きは少なく、「英国とEUの交渉は難航しながらも、いずれは合意するだろう」との見方が大勢のようです。というもこれまでの英国とEUの交渉においても、期限のギリギリまで交渉、合意できなければ期限を延長する、それでも合意できなければ更に期限を延長する、といったことを繰り返してきたからです。

問題なのは市場の予想に反して、FTAの締結はおろか部分的な合意すらできないまま移行期間が終了してしまう場合です。EU加盟国の間での人・モノの自由な移動ができなくなります。英国の最大の貿易相手であるEUとの輸出入において今まで必要なかった通関申告の発生による物流の混乱や高い関税が発生する（特に輸出）といった事態が発生します。そうすると、ただでさえ新型コロナウイルスによって落ち込んでいる英国経済に追い打ちをかけることになり、金融市場にも大きなショックが発生してしまいます。

【想定される今後の展開】

① FTA合意
2021年1月発効のFTAで合意し、移行期間終了
② 移行期間延長
英国内の法改正と合意済みの離脱協定の改正を行うことで移行期間を12月末から延長する
③ 部分的合意
輸送や通関手続き等の特定分野での合意または一部の品目に関してのみ協定を結び、移行期間終了
④ FTAなしで移行期間終了（実質合意なし離脱）
FTAで合意できず、高関税賦課、人・モノの自由な移動ができなくなり混乱が生じる

出所：各種報道

➤ 日本への影響



日本政府は10月にEPA（経済連携協定）を締結したことで、2021年1月から関税が大きく上がる事態を避けられます。しかし、軒並み英国内に拠点を持っている日系自動車大手への影響が懸念されます。それら企業の拠点の英国内の調達比率は平均で約4割程度であり、残りは日本やEUを含む海外から調達、完成した自動車を海外に輸出しています。英国がEUとFTAを締結できなかった場合には、現在無関税となっているEUとの輸出入に関税が発生し、事業の採算が悪化してしまう可能性があります。その為、一部の大手自動車メーカーは英国政府に対して、FTAを結ばなかった場合に発生する関税コストの補償を求めています。

りそな WEEKLY COLUMN

また、FTAを結べなかった場合には、英国ポンドが大きく売られることが想定されます。ポンド/ドルが世界全体の為替取引量に占めるシェアは第3位となっており、ドル/円等の主要な通貨への影響も避けられません。（表3参照）

【表3：主要通貨ペア別取引量とシェア（ネット・ネット・ベース）】

通貨ペア	2013		2016		2019	
	取引量	シェア	取引量	シェア	取引量	シェア
米ドル/ユーロ	1,292	24%	1,172	23%	1,584	24%
米ドル/円	980	18%	901	18%	871	13%
米ドル/ポンド	473	9%	470	9%	630	10%
米ドル/豪ドル	364	7%	262	5%	358	5%
米ドル/その他	214	4%	215	4%	320	5%
米ドル/カナダドル	200	4%	218	4%	287	4%
米ドル/人民元	113	2%	192	4%	269	4%
米ドル/スイスフラン	184	3%	180	4%	228	3%
米ドル/香港ドル	69	1%	77	2%	219	3%
ユーロ/ポンド	102	2%	100	2%	131	2%
米ドル/韓国ウォン	60	1%	78	2%	125	2%
米ドル/インドルピー	50	1%	56	1%	110	2%
米ドル/シンガポールドル	65	1%	81	2%	110	2%
ユーロ/円	148	3%	79	2%	114	2%
：	：	：	：	：	：	：
合計	5,360	100%	5,065	100%	6,590	100%

出所：Bank For international Settlements より作成

最後に・・・

あしもとでは、以前に比べて英国とEUの離脱に関わる問題への市場の反応は小さくなってきているように思われます。

しかしながら、実際に英国とEUがFTAで合意できないまま2020年12月末に移行期間が終了してしまうと世界全体へ影響が広がる為、今後も注意してみていく必要があります。

